

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

《人社系》

●茨城大学教育学研究科

「地域教育資源開発による高度教育専門職養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・担当教員は各専修から1名とし、大学院全体でプログラムに取り組んだ。受講生についても、専修の枠を取り払ってグループを作り、領域を超えて議論できる授業体制を整えた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・教員については、プログラムの充実を図るため、毎週会議を開き議論を重ねた。各専修の枠を超えた活発な議論が交わされるよう、お互いが問題意識を共有し、深めていくよう努力した。
- ・院生については、日頃接していない他専修の学生とグループを組むことになるので、話し易い雰囲気づくりを心掛けた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・大学院教育を考え、課題を共有化する絶好の機会となった。担当教員間での活発な議論は、大学院全体を視野に入れた今後の展望につながる貴重な経験となった。
- ・院生については、分野を超えた相互啓発が行われ、多様な考えやアプローチを見出す刺激的な場となった。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

③教育効果・成果についての検証と教育プログラムを改善するシステムの構築

《人社系》

●茨城大学教育学研究科

「地域教育資源開発による高度教育専門職養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・前期、後期での学習を踏まえて、模擬授業を行い、成果を発表すると同時に授業研究を行い、批判的検討を加えた。また、ポスターセッションを開催し、相互検証の機会とした。これらを踏まえて、院生を中心とした授業検討会をもち、院生の意見を取り入れつつ、教育プログラムを改善していくシステムを実行している。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・担当教員の意見や考えを明確に提示すること、院生の意見や考えを取り入れることのバランスの取り方について、担当教員間でじっくり議論することを重視した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・教育プログラムを改善するシステムの基礎は構築できている。従って、大学院全体の教育プログラムの見直しについても、今後の重要な観点を提供している。